

Title	フィッシャー氏著 貨幣の購買力 訂正再版
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.7 (1914. 9) ,p.908(128)- 909(129)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140910-0129

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

書に閑却せられたる個人の物質的幸福の原因を究明するに努めたり。従つて全篇演繹的又は獨斷的の説明を避けて歸納的解説の方法に依りて學理を教示せんとせり。是れ本書の長所にして又短所なるが如し。如何となれば、無味乾燥なる科學的記述は是れに依りて避くることを得たりと同時に、解説餘りに散漫に流るゝの傾ありて讀者をして明確なる印象を得ること能はざらしむるの虞あるを以て也。

著者の主張中には特に指摘するの必要あるものを見ず。唯著者は極力保護貿易を論難攻撃せるが、保護貿易其物の當否は姑らく措くも、著者の議論は餘りに極端に走れるが如し。

澤田吾一著『高等利息算』

大正三年四月東京富山房發行
菊版 百五十頁 定價六十五錢

本書は東京高等商業學校教授澤田理學士が實地教授の經驗

を參考として著はしたるものにして、單利、複利、年金、公債及債券の價格、利息等の計算法を説述せり。本書は名けて高等利息算と稱すれど、各種の計算法に用ひたる公式は概ね代數式なれば、代數の知識を有し且つ對數表の使用法を會得せる者は之を了解するに困難を感じざるべし。各種計算法は例題を設けて懇切に説明せるのみならず、練習問題を掲げ且つ巻尾に其答をも添へ以て獨習者に多量な與へたり。又最後に複利表、現價表、年金表等を掲げて讀者のみならず一般利息計算者の參考に資する所あり。

本書の説明の順序は多少當を得ざるが如き所あり、又、計算法の説明は複利表使用の點に重きを置き、従つて算法の理論(例へば永續年金の現價に對して何故にA_rなる分數を用ひべきかの類)を閑却せる所ありと思はれざるにも非ざれども、本書が概して頗る有用なる著述なることは疑ふの餘地なき所にして、吾人は經濟學研究者は云ふに及ばず、銀行、會社、商店員等利子の計算に従事せる人士に對して好參考書として之を推擧するに躊躇せざるものなり。

フイッシャー氏著『貨幣の購買力』訂正再版

千九百十三年組育發行
菊版五百十五頁東京買價金六圓

Iving Fisher 氏著 The Purchasing Power of Money は千九百十一年初めて上梓せられたるものにして貨幣數量説の一新解説と斬新なる方法に依る統計的論證を載せたり。邦譯は昨年『貨幣と物價』の書名の下に出版せられ、獨譯は目下印刷中なりと。原書は千九百十二年二月に再版に附せられたるが、昨年九月更に訂正増補して出版せり。訂正を加へたるは誤植誤字等にして、増補せるは初版出版後に於て著者の編纂せる新統計(千九百十二年迄)並に著者の提案せる物價調節策の説明なりとす。

ヒグー氏著『失業論』

千九百十三年倫敦出版
小版二百五十六頁東京買價五十錢

A. G. Pigou 氏著 Unemployment は失業を通俗的に論述せるものなり。著者ヒグー氏は英國の大經濟學者マシヤール氏の後任者として現にケンブリッヂ大學に教鞭を取りつゝあり。本書は Home University Library 叢書の一冊として執筆上梓せられたるものにして、従つて説明の順序、方法等は出來得る限り専門家以外の者に適應するに努めたる跡歴然たるものありと雖も、説明の精神とも云ふ可きものは全然學術的なるを以て、同叢書の内にては孰れかと云へば非通俗的

の出版物なる可し。著者は冒頭失業の定義を下し次に失業が失職者に及ぼす悪影響を論述し、轉じて失業の原因を討究せる後之に對する種々の救済策を論議せり。記述簡明而かも事例の引照該博なるのみならず、労働問題を捕へながら單に社會政策上の見地より之を討究するに満足せずして深く經濟學の根本原理に肉迫せる雄大なる議論紙面を壓するの概ありて、流石にヒグー氏の著書なりと思はしむる節々少からず。實に近來の一少快著なりと云ふ可し。